

番号	10	令和8年度公共事業再評価調書				担当課名	砂防課																																		
事業名	大規模特定砂防等事業				事業主体	静岡県																																			
ふりがな	いちうんさいがわしせんみずのやがわ				関係市町	磐田市																																			
箇所名	一雲済川支川水ノ谷川																																								
事業採択年度	令和4年度		計画期間	令和4年度～令和14年度																																					
用地着手年度	令和7年度		工事着手年度	令和8年度																																					
再評価理由※	事業採択後5年経過																																								
全体事業費	百万円 887	投資状況 (百万円)	～R6年度 105	R7年度 2	R8年度見込 210	計 317																																			
事業概要	(1)事業目的 水ノ谷川は静岡県の南西部に位置し、保全対象として人家23戸、県道磐田天竜線（第1次緊急輸送路）を含む土石流危険渓流である。当渓流は、渓床に不安定土砂が厚く堆積しており、土石流による甚大な被害が懸念される。このため、砂防堰堤を整備し、土砂災害を未然に防止する。 (2)事業内容 砂防堰堤工 1 基 法面工 1,739 m ²																																								
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・近年、激甚災害が頻発化し、県内でも甚大な土砂災害が発生しており、磐田市においても事業に対する地元の期待は大きく、地区住民のアンケートでは回答者24世帯のうち、23世帯が「砂防事業を進めていく必要性を感じる」と回答している。 ・令和7年度に補助事業化することにより、事業を推進している。 (2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果（令和8年度時点） <table><tr><td>B/C（i=4%）</td><td>参考：B/C（i=2%）</td><td>参考：B/C（i=1%）</td><td>EIRR</td></tr><tr><td>3.2</td><td>5.3</td><td>7.2</td><td>10.5%</td></tr></table> ・総便益（B） 22.6 億円（平均便益：1.3億円） ・総費用（C） 7.1 億円（建設費：6.9億円、維持管理費：0.1億円、用地残存価値：0.2億円） ○見込まれる効果（定性的な効果） ・土石流による甚大な被害の防止 (3)事業の進捗状況（令和8年度見込み） <table><tr><td colspan="2">区 分</td><td>進捗率</td><td colspan="2">内 訳</td></tr><tr><td colspan="2">事業費</td><td>35.7%</td><td colspan="2">（ 317 百万円 / 887 百万円 ）</td></tr><tr><td rowspan="2">事業量</td><td>砂防堰堤工</td><td>0.0%</td><td colspan="2">（ 0 m / 9.5 m ）</td></tr><tr><td>法面工</td><td>50.0%</td><td colspan="2">（ 870 m² / 1,739 m² ）</td></tr><tr><td colspan="2">用地取得</td><td>75.3%</td><td colspan="2">（ 3,541 m² / 4,703 m² ）</td></tr></table> <table><tr><td>評価</td><td>継続が妥当</td></tr></table>							B/C（i=4%）	参考：B/C（i=2%）	参考：B/C（i=1%）	EIRR	3.2	5.3	7.2	10.5%	区 分		進捗率	内 訳		事業費		35.7%	（ 317 百万円 / 887 百万円 ）		事業量	砂防堰堤工	0.0%	（ 0 m / 9.5 m ）		法面工	50.0%	（ 870 m ² / 1,739 m ² ）		用地取得		75.3%	（ 3,541 m ² / 4,703 m ² ）		評価	継続が妥当
B/C（i=4%）	参考：B/C（i=2%）	参考：B/C（i=1%）	EIRR																																						
3.2	5.3	7.2	10.5%																																						
区 分		進捗率	内 訳																																						
事業費		35.7%	（ 317 百万円 / 887 百万円 ）																																						
事業量	砂防堰堤工	0.0%	（ 0 m / 9.5 m ）																																						
	法面工	50.0%	（ 870 m ² / 1,739 m ² ）																																						
用地取得		75.3%	（ 3,541 m ² / 4,703 m ² ）																																						
評価	継続が妥当																																								
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	当初想定より周辺の土質が悪かったため、掘削影響範囲の法面对策が必要となったことから、追加工種の検討・施工に不測の日時を要した。 未取得用地は協議を進めており、令和9年度に買収が完了する見込みであり、地元住民からの期待も大きいことから事業を計画的に推進し、令和14年度完成を目指す。 <table><tr><td>評価</td><td>継続が妥当</td></tr></table>							評価	継続が妥当																																
評価	継続が妥当																																								
【視点3】 新たなコスト削減・代替案立案等の可能性	コスト削減対策としては、残存型枠を採用可能な堰堤本体工等の構造物に対して採用することや、活用可能な建設発生土の現場内での有効活用や他工事への流用、新技術・新工法の活用を検討するなどコスト削減と工期短縮を図っていく。																																								
対応方針（案）	(1)対応方針（案） 本事業を【 継続 】する。 (2)理由 事業は順調に推移しており、費用対効果も認められることから、事業を継続して整備の推進を図る。																																								

令和8年度 公共事業再評価

＜事業再評価＞

通常砂防事業 : 6件
地すべり対策事業 : 1件

大規模特定砂防等事業 : 3件
急傾斜地崩壊対策事業 : 11件

番号	事業名	箇所名	代表事業
1	通常砂防事業	建穂神社沢	
2	通常砂防事業	足間沢	
3	大規模特定砂防等事業	水ノ谷川	◎
4	大規模特定砂防等事業	平松沢B	
5	大規模特定砂防等事業	平松沢C	
6	通常砂防事業	河内諏訪沢	
7	通常砂防事業	勘兵衛沢	
8	通常砂防事業	子ノ上沢	
9	通常砂防事業	御神川	
10	地すべり対策事業	大滝	

番号	事業名	箇所名	代表事業
11	急傾斜地崩壊対策事業	桜木町No.3	
12	急傾斜地崩壊対策事業	神島B	
13	急傾斜地崩壊対策事業	関の沢No.2	
14	急傾斜地崩壊対策事業	千代日向No.2	
15	急傾斜地崩壊対策事業	建穂赤松峠No.2	
16	急傾斜地崩壊対策事業	沓谷	
17	急傾斜地崩壊対策事業	丸子井尻	
18	急傾斜地崩壊対策事業	丸子赤目ヶ谷B	
19	急傾斜地崩壊対策事業	坊主免	
20	急傾斜地崩壊対策事業	川原平b	
21	急傾斜地崩壊対策事業	源太山	

＜事後評価＞

急傾斜地崩壊対策事業 : 1件

番号	事業名	箇所名	代表事業
1	急傾斜地崩壊対策事業	高林花ノ木	

交通基盤部 河川砂防局 砂防課

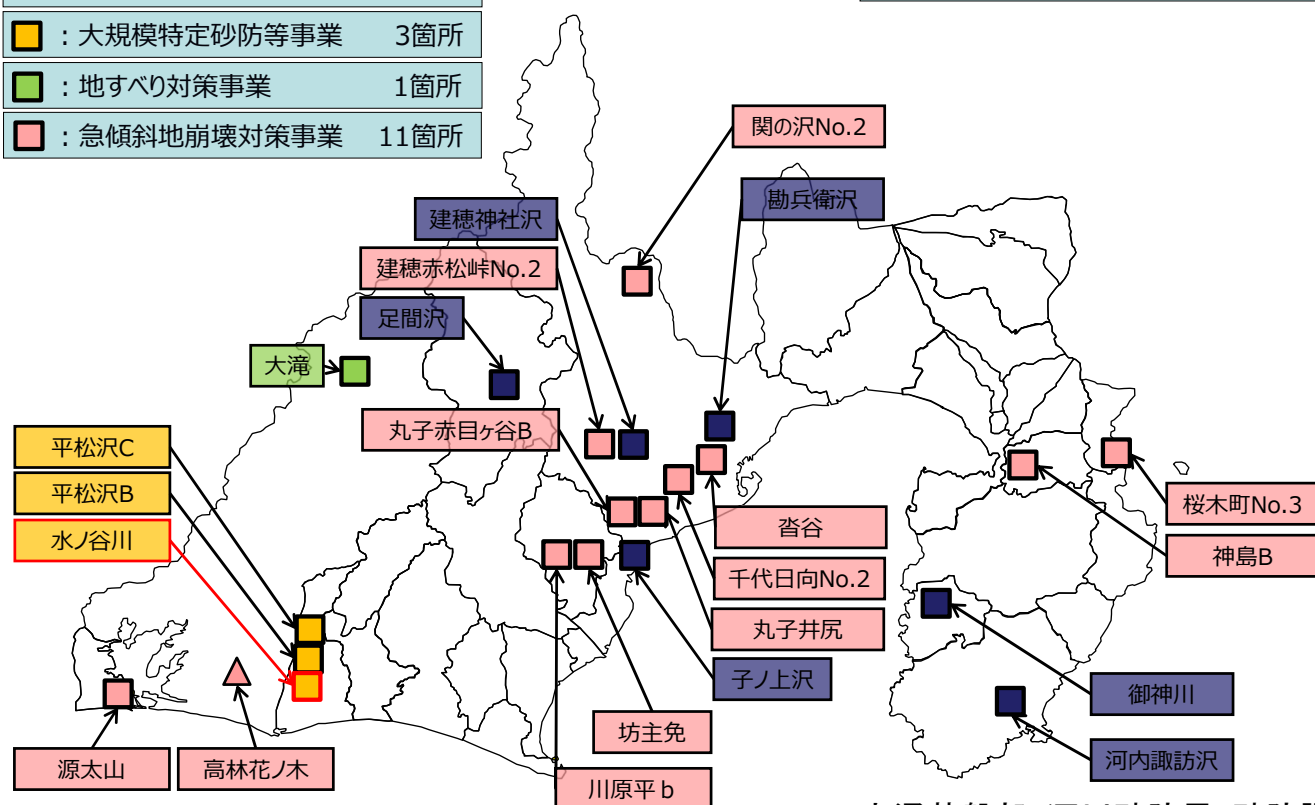
令和8年度 公共事業再評価

＜事業再評価＞

■ : 通常砂防事業	6箇所
■ : 大規模特定砂防等事業	3箇所
■ : 地すべり対策事業	1箇所
■ : 急傾斜地崩壊対策事業	11箇所

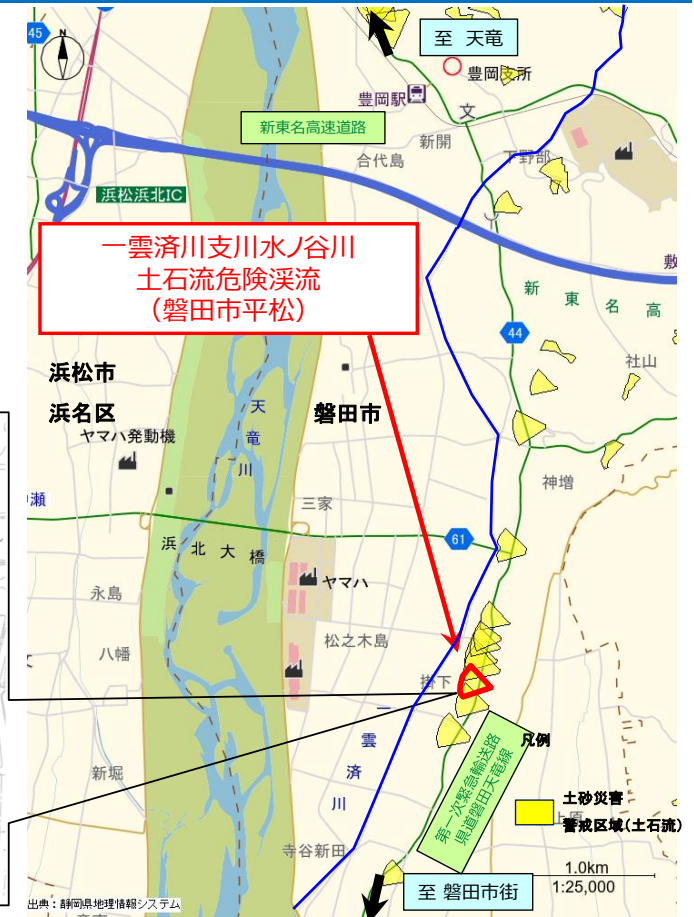
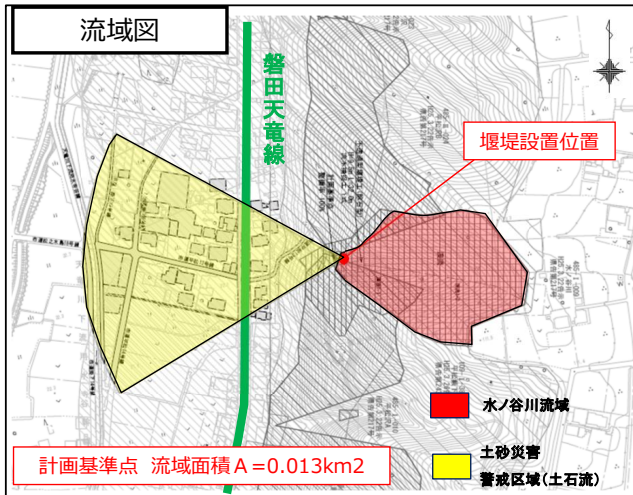
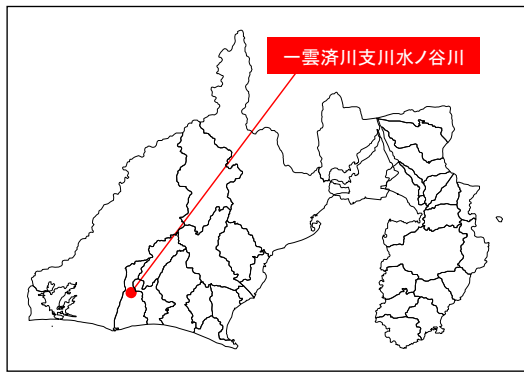
＜事後評価＞

▲ : 急傾斜地崩壊対策事業	1箇所
----------------	-----



交通基盤部 河川砂防局 砂防課

1. 事業箇所位置図



2. 事業を巡る社会情勢の変化



- 令和4年9月24日台風第15号により平松地区で土砂災害が発生
- 大規模半壊1戸、半壊9戸
- 第1次緊急輸送路 約1カ月通行止
(主要地方道磐田天竜線)

- 令和4年度補正予算から交付金事業である「通常砂防事業(一般)」により事業着手

- 令和7年度に補助事業である「大規模特定砂防等事業」を採択

補助事業化することにより重点的に予算を確保し、5 渓流を一連で整備することにより地区の安全度を向上を推進する

各渓流の経緯

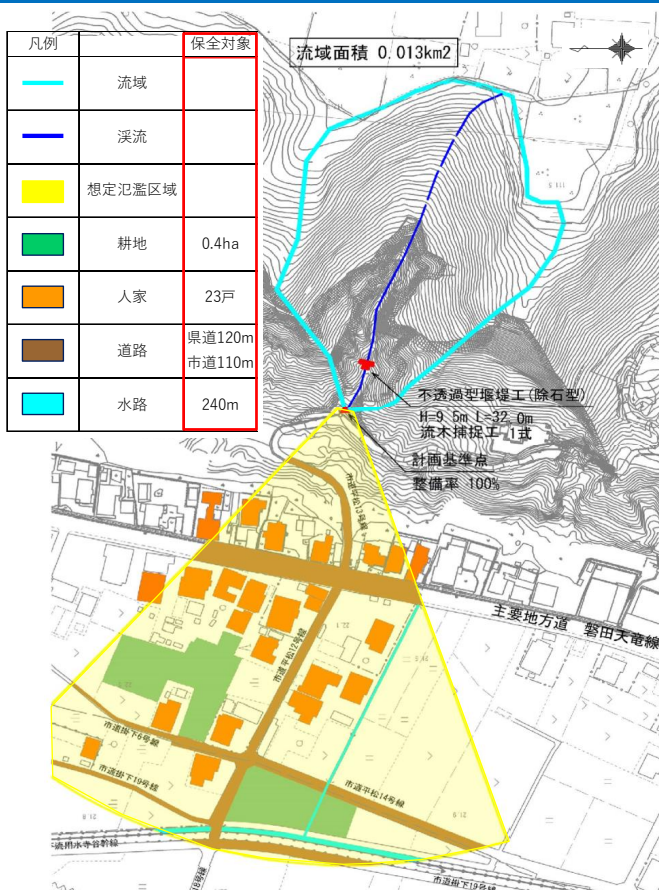
	交付金事業	補助事業	今回 事業評価	説明箇所
平松沢D	R5	R7	-	-
平松沢C	R4補正	R7	○	
背戸ノ沢	-	R7	-	-
平松沢B	R4補正	R7	○	
水ノ谷川	R4補正	R7	○	○

2. 事業を巡る社会情勢の変化

- 令和4年台風第15号により被害を受けたため、緊急輸送路に影響を与える土石流危険渓流を一連で整備する。
- 各溪流に1基ずつ砂防堰堤を整備する
- 一連整備により人家67戸、緊急輸送路を保全する。
- 水ノ谷川では人家23戸及び緊急輸送路120mを保全する。



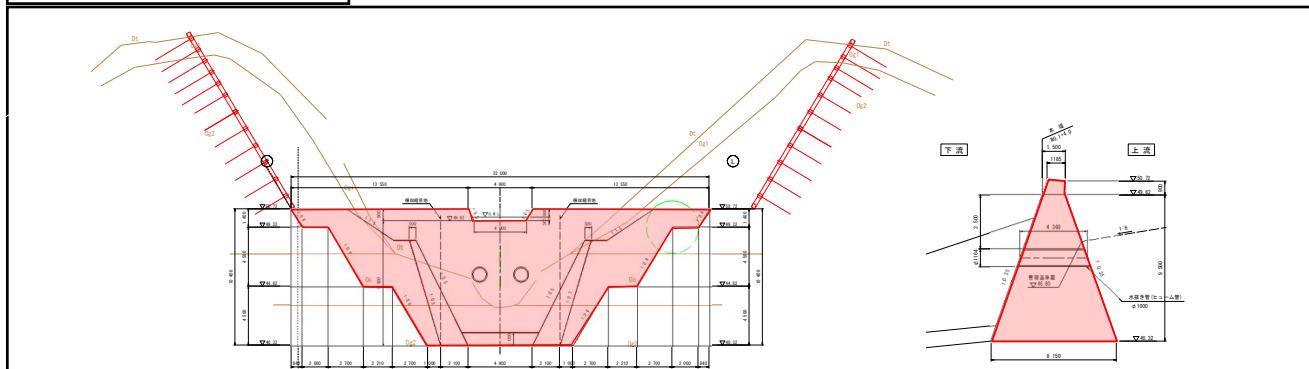
令和4年台風第15号時の状況（磐田市平松地区）



水ノ谷川 保全対象位置図

3. 事業概要

正面図・側面図



事業目的

水ノ谷川は静岡県の南西部に位置し、保全対象として人家23戸、県道磐田天竜線（第1次緊急輸送路）を含む土石流危険渓流である。当溪流は、溪床に不安定土砂が厚く堆積しており、土石流による甚大な被害が懸念される。このため、砂防堰堤を整備し、土砂災害を未然に防止する。

事業内容

- ・溪流名：一雲済川支川水ノ谷川
- ・計画期間：R4～R14
- ・事業費：C=887百万円
- ・事業量：砂防堰堤工 1基、法面工 A=1,739m²
堰堤（不透過型）高さ9.5m、堤長32.0m
計画捕捉量533m³

荒廃状況



周辺状況



保全人家等



県道磐田天竜線

4. 事業の必要性（事業の効果）

事業の投資効果（費用対効果の検証）

総便益（B）

総便益 22.6億円

- 直接被害
 - ・家屋被害、道路被害、人的被害（逸失利益）
- 間接被害
 - ・営業停止、交通途絶、人的被害（精神障害）

総費用（C）

総費用 7.1億円

- ・建設費
- ・維持管理費



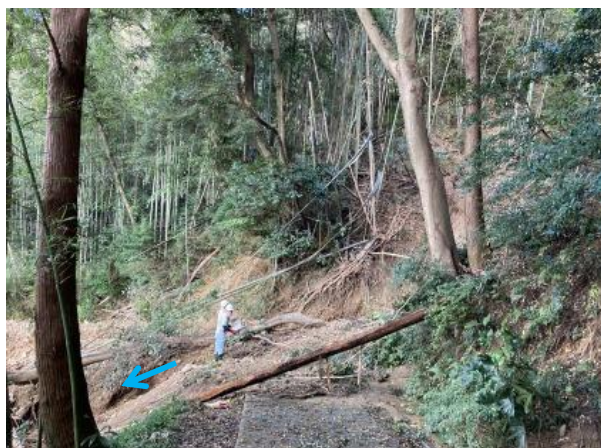
費用対効果(B/C):3.2 経済的内部収益率(EIRR):10.5%

前回の費用対効果(B/C):7.8

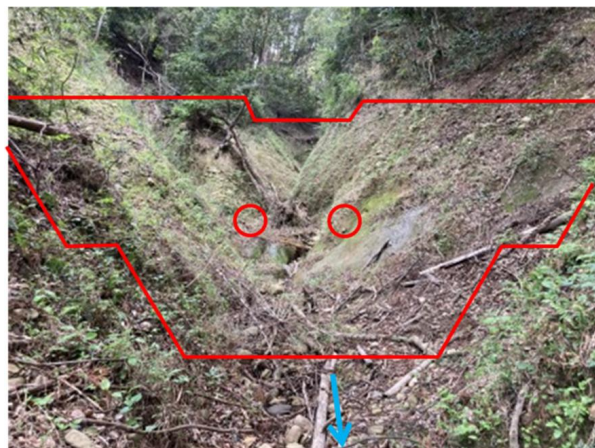
現地詳細測量の結果、溪床勾配がきつく、堰堤上部に法面工を実施する必要性が生じたことから全体事業費が増額し、費用対効果が低下した。

5. 事業の進捗状況（令和8年度末見込み）

事業費		35.7%	(317百万円 / 887百万円)
事業量	砂防堰堤工(不透過型)	0%	(0m / 9.5m)
	法面工(吹付法枠、鉄筋挿入工)	50%	(870㎡ / 1,739㎡)
用地取得		75.3%	(3,541㎡ / 4,703㎡)



着手前の溪流の荒廃状況写真

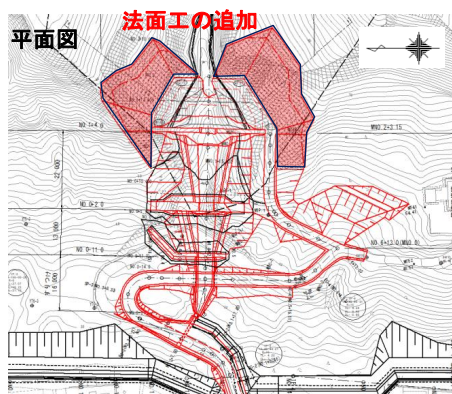


砂防堰堤工 設置位置

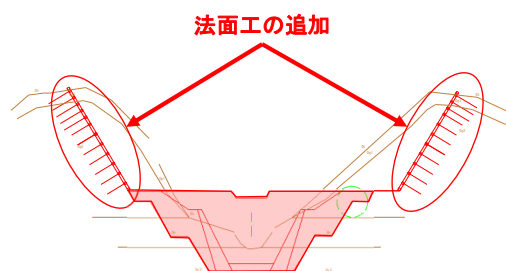
6. 前回からの変更点・理由

前回からの変更点・理由

	前回（R4）	今回（R8）	主な変更理由
①計画期間	R4～R10	R4～R14 （+4年）	・地質調査の結果、掘削影響範囲の法面对策が必要となり、追加工種の検討・施工に時間を要した
②全体事業費	140百万円	887百万円 （+747）	・地質調査の結果、掘削影響範囲の法面对策が必要となった ・施設配置検討結果により市道の付替や管理用道路の見直しが発生した



正面図

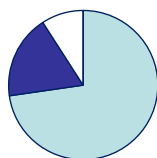


7. 今後の事業の進捗の見込み

事業進捗率は、35.7%（事業費ベース）であり、事業の早期完了に対する地元からの要望は強く、期待も大きい。引き続き事業進捗を図る必要がある。未取得である用地は令和9年度の買収が見込まれているため、令和14年度までに完成する予定である。当初完了予定である令和10年度から2か年で本堤工の施工を予定しており、早期の安全度向上を目指していく。

降雨時に斜面の状態が気になるか？

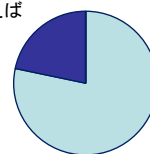
どちらかといえば
気になる
18%



気になる
73%

「砂防事業」の必要性を感じるか？

どちらかといえば
感じる
22%



非常に感じる
78%

●事業推進のための取組



R7.1.30 平松地区 地元説明会

- ・ 工事の進捗状況について、地元とコミュニケーションを図っている。
- ・ 地元説明会は定期的の実施しており、地元の意見を参考にしながら工事を進めている。
（R6.5.23・R7.1.30・R7.11.27実施）

このことから、今後速やかに事業の進捗を図ることができる。

8 . 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- ・ 残存型枠を採用可能な堰堤本体工等の構造物に対して採用する
- ・ 活用可能な建設発生土の現場内での有効活用や他工事への流用
- ・ 今後、工事を進める上で、新技術・新工法の活用を検討し、さらなるコスト縮減を図っていく。

9 . 対応方針（案）

近年、豪雨が頻発化し、県内でも甚大な土砂災害が発生している。

◎本事業は

- ・ 土石流による被害を防止するものである。
- ・ 磐田市において事業に対する地元の期待も大きい。
- ・ 費用対効果も見込まれ、安全・安心な地域づくりに大きく寄与する。



事業を継続して早期完成を図る。